



恐竜フィギュアを配した海洋堂本社

# オリジナリティーを發揮、日本のフィギュア文化をけん引

## 株式会社 海洋堂

### 事業内容と沿革

#### 食玩ブーム契機に、認知度を飛躍的に向上

昭和39年、宮脇修氏（現会長）が大府守口市で小さなホビーショップを開業した。当初はプラモデルの小売りなどを行っていたが、プラモデルの組み立て代行を行っているうちに、腕利きの模型製作者が集まってオリジナル製品を作りたいという思いが強まり、昭和57年にオリジナル製品の企画・開発・製造・販売を始めた。それまで日本ではほとんど認知されていなかったフィギュアのオリジナル製品を世に送り出した。

平成11年には「海洋堂」が製作した動物フィギュアが入ったチョコエッグ「日本の動物シリーズ」をフルタ製菓（株）が発売、食玩ブームを巻き起こした。「海洋堂」の「キャラクターに頼らず動物・生物もので勝負できるのでは？」という提案と、精巧なフィギュアづくりへの思いが重なり、広く世間に受け入れられた。「海洋堂」にとっても、同社の名前とものづくりへの姿勢が広まるエポックメイキングな出来事だった。

食玩には低コストのものづくりが求められた。ちょうどその前に中国でフィギュア完成品の品質を維持しながら低コストで量産できる体制を整えていたことが、食玩進出を後押しした。その後、食玩ブームは徐々に去っていくが、フィギュア全体さらに「海洋堂」に対する認知度は高まっていた。

### 強み

#### 家族経営を貫き、自由なものづくりを守る

「海洋堂」の従業員は現在42名。過去から人数は大きく変動していない。家族経営を基本とし、誰からもコントロールされず自由なものづくりを続けるために株式公開の誘いも断り、目の届く規模の少人数体制を貫いてきた。

フィギュアを実際に製作するのは10名程度で、立体物をつくり出す造形作家、塗装・彩色を手がける人、複製を手がける人に分かれている。その他のスタッフは海外との折衝や製品開発営業、経理、事務、店舗運営などの業務を行っている。製品企画は宮脇修一社長と2、3名のスタッフによる企画会議で決定する。

国内のフィギュアメーカーで売り上げが大きいのは大手玩具メーカーなどだが、「海洋堂」の開発方針は同業他社とは一線を画している。他社がキャラクターありきでフィギュア製品を作っているのに対し、同社は「海洋堂」の企画として、または造形作家たちがそれぞれ興味のあるものを題材にしている。題材は人物、動物、仏像などさまざま。創業者の宮脇修氏が「既存のものに頼るな。模型は自由なモノだ」と好きなモノを作らせる方針を続けた結果、オリジナリティーが育っている。



フィギュアをつくる作業



さまざまな種類のフィギュア



食玩ブームを起こしたチョコエッグ

- 企画・提案
- 試作・受託
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンラインワン
- 海外対応

### カドマイスターの取り組み

#### 造形作家の表現力が決め手

フィギュアづくりは、まず造形作家が何もないところから立体物の原型製作から始める。造形作家は2次元の写真や現物をつぶさに観察し、精巧な立体を作り上げていく。単に精巧に描写するだけでなく、2次元を3次元化する過程で独特な動きを表現したり、背景も含めた立体物を製作したりすることもでき、作家の感性を發揮できる余地も大きい。

造形作家に求められる基本的な資質はデッサン力や空間構成力だが、実は同社の造形作家は専門教育を受けている人は少なく、フィギュア好きが高じて作家になった人が多いという。「好きこそもの上手なれ」を体現した作家たちの名は知れ渡っている。

同社はフィギュア製品に造形作家の名前を入れるようにしている。造形作家のコアなファンづくりに役立つとともに、作家自身も名前が入るため責任を感じながらもものづくりに臨むという効果がある。3Dスキャナーや3Dプリンターなど最新機器も導入しているが、決め手は作家の表現力であることは変わらない。

### 日本のフィギュア市場の礎を築く



代表取締役 宮脇修一さん

プラモデル小売店からスタートし、プラモデルを独自の表現で組み立てた完成販売を経て、昭和60年頃から自社開発によるフィギュア製作を行うようになりました。ガレージキットと呼ばれる自主製作規模から発展したハイクオリティー模型のムーブメントを生み出し、日本におけるフィギュア市場発展の礎を築いたと自負しています。新しいものづくりに挑戦するというこだわりを持って、造形作家の個性を重視し、独自の製品企画、造形表現を続けてきました。今ではホビー市場の範疇を超えて一般層への知名度も向上しています。

### 主な事業内容

ハイクオリティーフィギュアの企画・製造・販売

### 主な取引先（納入先）

食品メーカー、博物館、動物園、水族館など

【住 所】〒571-0041 大阪府門真市柳町19-3  
 【TEL】06-6909-1051  
 【FAX】06-6908-3077  
 【創 業】昭和39年4月 【設 立】昭和39年4月  
 【資本金】2,000万円 【従業員】42名

### 今後の展開

#### 身近な場所で触れてもらい、フィギュアファン層を拡大

すでにフィギュア愛好家にとどまらず、「海洋堂」の名前は広く知れ渡っている。ただし、「フィギュアは必需品ではないだけに、日本に決して定着しているわけではない」と同社では常に危機感を抱いている。

この問題を解決するために同社が打ち出した方針は、世間の人々に身近な場所でフィギュアに触れてもらうことだった。かつての食玩ブームで一気にフィギュアが広まったように、コンビニエンスストアや観光地などでまずは気軽にフィギュアを手にとってもらおう戦略を進める。例えば、動物園や水族館、博物館、イベントなどを訪れる客を対象に、その場所でしか買うことのできない精巧なフィギュアを製作、販売する。観光施設やイベントの付加価値向上にも役立ち、地方創生にも貢献する。「海洋堂」としては、身近な場所で触れてもらい、その良さ、楽しさを知ってもらうことで、フィギュア文化の定着を図りたいと考えている。

<http://www.kaiyodo.co.jp/>

